

スシはカジノに行きたかったが、然しペペは遊びたくなかった。その上、ベットに横になりたかった。

★ ★ ★ ★

ホテルの庭での朝食の間、ペペは回りのテーブルを見ていた。優雅な人、そのように見えることを望む人、のんびり心配なく一日中暇な人..。彼等を羨ましとは思わない、彼の静かな探偵生活、朝食のためのチュウロ、全人生の中の友達、マドリッドの中心にある居心地の良くないアパートを選択する、子供がいなこの40歳代の環境（ホテルの人々）より、週末に息子達をシエツラ（山）に連れて行って一緒に過ごすことを選択する。

事実スシはとても機嫌が良かった。周りの豪華さに少しばかり目がくらんでいた。ペペは、スシがこの状況を常に嬉しく思っていることを当たり前と思った。

— 気に入らないのですか、ボス、このホテル？

— 私に気に入れと言うの？ ひどいよ。

— しかし、貴方少し可笑しいですよ。庭をご覧になって、プールにゴルフ場・・・。

— そうだね、スシ、そうだよ。すべてが素敵だ、然しこの意味するもすべてが、私にはおぞましいよ。

— 貴方はロマンチックですね、ボス。

— そうかも知れない。